

令和5年度第2回研究全体会 白石哲也副校長先生の実践紹介

1 自己紹介

「なぜ今、主体性の育成が必要なのか？」

- 4校を経験し、20年間のうち12年は困難な学級を任されていた。
 - 力ではどうにもできない子供たちに、何をしてきたのだろう？ → 主体性の育成！
 - 3校目の3年目に担任した5年生が、過去に崩壊した指導困難学級で最も苦勞した。
- これを立て直すのに1月までかかった。では何をやってきたのか？



2 実践例紹介

【実践1】特別活動

- 基本コンセプトは、「幸せと笑顔」「毎日やる」「毎週報告会」
みんなの幸せと笑顔のためにできることを考えさせる
「会社」「社長」「社員」と名付けた係活動



- 仕事の内容は、具体的に、細かく決める。
「いつ」「どこで」「どれくらい」

- 1 みんなに考えてもらう
 - 2 書いて、張り出してもらう
 - 3 同じような内容の会社は、話し合って合併するか、別の名前にするか話し合う
 - 4 それ以外の人は、他の会社の内容も見ても、自分の会社の内容を見直す時間を取る
- ★ 中身が大事

- 月曜日の朝に、何をするか宣言させていた。今週やることを言わせて、意識させた。

- 金曜日の帰りに、「株主総会」やった内容を発表させた。
聞きながら、点数をつけさせた。

1人持ち点10点で係活動を評価し合う。

すごくいい会社に3点。社員の人数で得点を割って3点以上にならないと会社は存続できない。

- 具体的な発表をさせ、点数をつけさせる。社員の人数で点を割る。今週のトップを表彰。

- 3点未満を2週間続けたらその会社は解散。





このような活動を続けることで…

- お互いを認め合う。
- やっていないことには、責任をとってもらう。自分で決めたことをやり遂げさせる。
- ☆ 家族で相談する家庭もあった。

【実践2】 体育

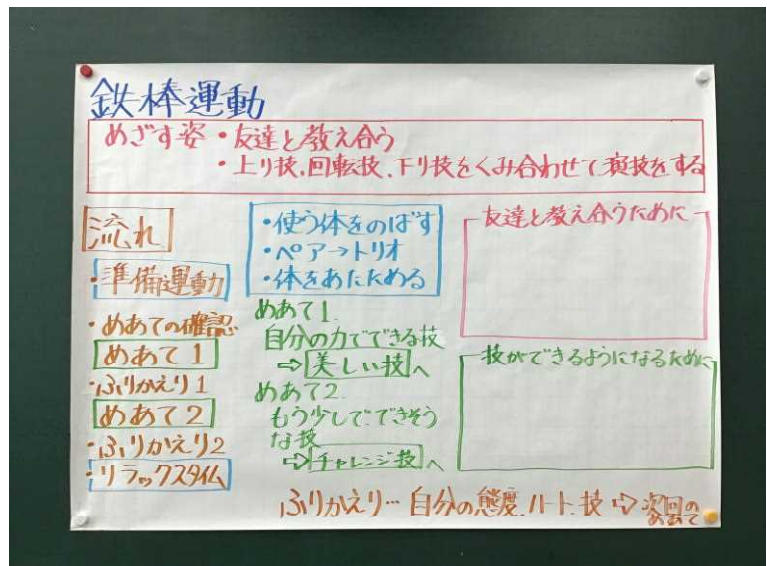
「目指す姿」 常にここへ戻る。教師はこれを見取る。

評価し合うペア学習

途中でよくやっているペアを見せて褒める

学習カードの工夫

- 前時の最後に次の授業で頑張りたいことを発表させそれを「めあて」に記録しておく
- 次の授業で「見取り」「声かけ」を確認し、記録する



【実践3】 総合的な学習の時間

総合の始まりはみんな非常に苦労したが、主体性を伸ばすのには非常に有効だった。

4年生「フリーマーケット」

ゴミをなくすには？

6年生「職業体験」

半日職業体験 夢を体験

断られる体験もたくさんさせた。

最終的に「礼儀が大事」ということを学んだ子が多かった。



3 まとめ

- 見通しをもってチャレンジしてほしい。
- 本もたくさん出ている。勉強してください。
- まず、試しにやってみる。
- いろんな教科でやってみて、どうだったか話ができたらいい。

4 協議会 グループ協議 低・中・高で話し合い (20分)



低学年グループ

- 1、2年生「先生に自分だけを見てほしい」がいつから人のためを考えられるようになるか？
- 2年生はようやく自分のことができるようになってきた。1年生は自分のやることをやらないで人の世話を焼きたがる。
- 何を教えるべきか、何を自由に考えさせるのか。

中学年グループ

- 係活動、ふりかえりが大事。体育のふりかえりは毎回させるべきか？ 時間が足りない。
- 個人のめあてやふりかえりを書く時間が取れない。
- 社会のめあてや学習問題をこちらで集約するのが難しい。



高学年グループ

- 主体性の育成に参考となる実践がたくさんあった。
- 教科担任制で時間の確保が難しい。
- 掲示物はどうしているのか？ 通知表の表記は？

白石副校長先生より

- 体育の「ふりかえり」について
 - ・授業を見ていると、準備運動に時間がかかっている
 - ・全校でできる準備運動を作ったこともある
 - ・準備7分 めあて1を10分、2を10分程度でいいのでは
 - ・単元によってあったほうがいいものとななくてもよいものもある。
- 会社 掲示物、通知表など
 - ・毎週取り外して黒板に掲示したので、すぐ取れるようにしていた。厚紙でつくっていた。
 - ・通知表の表記は、最終的な会社名を記載

その他

めあて、学習問題の集約 → ロイロノートのアンケートを使って、集約すると簡単にできる。